

時の記憶

シリーズ97
生涯学習課
☎43-1111
(内線1233)

石岡市の戦争遺跡 石岡海軍航空隊

太平洋戦争中、茨城県には多くの海軍航空隊や基地が開設されていました。「予科練」の霞ヶ浦海軍航空隊（阿見町）や映画の舞台になった筑波海軍航空隊（笠間市）が有名ですが、実は、石岡市にも海軍航空隊が開設されていました。

国道6号線の石岡市役所入口交差点付近から、北側へと1km



▲八軒台の掩体壕

以上にわたって延びる直線道路が3本あります。これが航空基地（飛行場）の滑走路跡にあたります。戦争末期に急造された芝張りの簡易なものでしたが、滑走路のほかにも飛行機を隠す掩体壕が30基以上建設されていました。

掩体壕は上図のように周囲を土手で囲っただけで屋根はなく、近くに落ちた爆弾の爆風や破片を防ぐだけのものですが、米軍が撮影した写真によれば、滑走路から1km以上も離れた東府中や八軒台、東大橋、旭台にまで建設されていました。現在、八郷総合支所では、米軍撮影の写真をもとに基地・飛行場を復元したパネルとともに、市内の遺跡から発掘された出土品を展示する企画展を開催しています。ぜひご覧ください。

ミニ企画展

「石岡市の戦争遺跡」

日時 2月23日まで

※年末年始・土日祝も見学可能
場所 八郷総合支所 1階市民ラウンジ

時の記憶

シリーズ98
生涯学習課
☎43-1111
(内線1233)

石岡市の戦争遺跡② 掩体壕と空襲

前回、石岡海軍航空隊基地には飛行機を隠すための掩体壕が30基以上建設されていたと紹介しました。では、各掩体壕には実際に飛行機が格納されていたのでしょうか。

茨城空港へのアクセス道路建設に伴い、発掘調査が行われた小美玉市百里原海軍航空隊基地の掩体壕では、米軍の機銃弾が集中して出土した掩体壕とそうでないものがありました。つまり、飛行機が格納されていた掩体壕とそうでないものがあることがあり、米軍は事前にそれを把握して、ピンポイントに攻撃していたと考えられるのです。

石岡の掩体壕が発掘調査されたことはありませんが「米軍戦略爆撃団調査報告」には、昭和20年8月13日、偵察機で基地を撮影し、掩体壕のなかに格納された飛行機を発見したこと、そ

してその結果をもとに8月15日早朝攻撃に至り「8発のロケット弾を発射した」ことが記録されています。つまり百里原と同じように、事前の偵察情報をもとに攻撃していたことがわかります。また当時の航空隊にはすべての掩体壕に飛行機を格納するだけの力がなかったということも推測できます。

「米軍戦略爆撃団調査報告」はミニ企画展にて展示中です。

ミニ企画展

「石岡市の戦争遺跡」開催中

場所 八郷総合支所

1階市民ラウンジ

日時 2月23日まで

(午前8時30分～午後5時15分)



▲いしおかイベント広場から出土した戦時中の食器も展示しています